



## 「きついコース！」 「達成感を味わった！」 —— みんなの美の山さくらマラソン ——

3回目となる「みんなの美の山さくらマラソン」が三月五日行われました。ランナーは秋田、石川、神奈川、埼玉、東京、山梨、群馬、栃木など多くの地域からまた、地元の人や子どもたち約360人が参加しました。

神奈川から来た親子3人「3回目の参加です。箱根駅伝の5区6区をコンパクトにした感じでめりりもあり楽しいです。」「親子で参加できて、アットホームでいいですね。」

北本市から参加の高校生10Kを走ったがめっちゃきつかった。」奥さんの実家が皆野町で夫婦で毎年参加の人もきつかった。」2回目参加の女性は 昨年は10Kに挑戦。今回は5Kを走った。達成感を味わいました。」

「ご主人の応援に来ていた人は、まだ来ない。」と心配そうでしたが元気に走ってくるのが見ると大きな声で「カンバレー！」と声援を送っていました。

さくらマラソンを見学した人の声 さくらマラソンと名打って始めたものなのに、ただ林の中を走るだけではもったいない。町をアピールするために大変だけでもう少し力を入れて欲しい。山の中でやっているのでは町民はわからない。役場前をスタートすることも考えては？」放送で町民に知らせて欲しい「など貴重な意見を頂きました。

## 第6回 “戦争させない” “原発いらない秩父行動”

3月5日、春の日ざしの中、秩父市福祉女性会館で集会後、市内をパレードしました。

オープニングでは、ギターやトランペットの伴奏で “ふるさと” や “ウイシャルオーバーカム” などを皆で歌いました。

基調講演は、関根一昭さん。原発をめぐる最近の情勢を話されました。福島島の状況として、避難者は今も約8万人。解除されても環境が整わず帰れない事や、自主避難者への住宅支援の打ち切り（3月）、イジメのことなど。

次に原発政策に関して、廃炉の困難さや青天井の費用の事、それを国民に支払わせる巧妙なやり方や、すでに破綻している核燃料サイクルにこだわり続ける政府の姿勢などを。最後に原発ゼロを実現する運動



としては、困難もあるが前進しているとの報告でした。



昨年の新潟や鹿児島県知事選での勝利。（鹿児島島の三反園知事は選挙結果を裏切るような発言で川内原発の再稼働をみとめる状況になってしまったが、）市民と野党の共同で再稼働を許さない闘いが広がっている。憲法、安保法制、核廃絶とリンクした総合的な運動を広げましょうと話されました。

意見交換の場では、放射線測定所の立野さんからの報告。高校生からはダメなものはダメ、政治の事を話せる環境を作っていきたい」との話。皆野 長瀬平和行進実行委員会主催の 憲法カフェの経験などが話されました。

集会アピールの採択後、市内をパレード。ピースコールや、歌いながら市民や観光客にアピールしました。

